

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】令和3年9月30日(2021.9.30)

【公開番号】特開2021-53436(P2021-53436A)

【公開日】令和3年4月8日(2021.4.8)

【年通号数】公開・登録公報2021-017

【出願番号】特願2020-210408(P2020-210408)

【国際特許分類】

A 6 3 F 5/04 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 5/04 6 1 1 B

【手続補正書】

【提出日】令和3年8月23日(2021.8.23)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

メイン制御手段と、

サブ制御手段と、

を備え、

遊技区間として、通常区間と有利区間とを有し、

通常区間で特定抽せん結果が決定された遊技では、メイン制御手段は、有利なストップスイッチの操作態様を示す所定情報をサブ制御手段に送信せず、

有利区間で特定抽せん結果が決定された遊技では、メイン制御手段は、有利なストップスイッチの操作態様を示す所定情報をサブ制御手段に送信可能とし、

1バイトの値を記憶可能な第1記憶領域と、2バイトの値を記憶可能な第2記憶領域と、を備え、

タイマ割込み処理によって、第1記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処理と、第2記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処理とを実行可能とし、

第1記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処理は、第1記憶領域に記憶されている値が「0」であるか否かを判断することなく、一命令で実行可能とし、

第1記憶領域に「N(N-1)」が記憶されている状況において、第1記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処理が実行されたときは、当該処理の結果として第1記憶領域に記憶されている値は「N-1」であり、

第1記憶領域に「0」が記憶されている状況において、第1記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処理が実行されたときは、当該処理の結果として第1記憶領域に記憶されている値は「0」であり、

第2記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処理は、第2記憶領域に記憶されている値が「0」であるか否かを判断することなく、一命令で実行可能とし、

第2記憶領域に「M(M-1)」が記憶されている状況において、第2記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処理が実行されたときは、当該処理の結果として第2記憶領域に記憶されている値は「M-1」であり、

第2記憶領域に「0」が記憶されている状況において、第2記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処理が実行されたときは、当該処理の結果として第2記憶領域に記憶されている値は「0」である

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

前述の従来の遊技機は、タイマ値を更新するときのプログラムが複雑化し、プログラム容量が増大するおそれがある。

本発明が解決しようとする課題は、簡素なプログラムで値を更新可能とすることである。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

本発明は、

メイン制御手段と、

サブ制御手段と、

を備え、

遊技区間として、通常区間と有利区間とを有し、

通常区間で特定抽せん結果が決定された遊技では、メイン制御手段は、有利なストップスイッチの操作態様を示す所定情報をサブ制御手段に送信せず、

有利区間で特定抽せん結果が決定された遊技では、メイン制御手段は、有利なストップスイッチの操作態様を示す所定情報をサブ制御手段に送信可能とし、

1バイトの値を記憶可能な第1記憶領域と、2バイトの値を記憶可能な第2記憶領域とを備え、

タイマ割込み処理によって、第1記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処理と、第2記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処理とを実行可能とし、

第1記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処理は、第1記憶領域に記憶されている値が「0」であるか否かを判断することなく、一命令で実行可能とし、

第1記憶領域に「N(N-1)」が記憶されている状況において、第1記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処理が実行されたときは、当該処理の結果として第1記憶領域に記憶されている値は「N-1」であり、

第1記憶領域に「0」が記憶されている状況において、第1記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処理が実行されたときは、当該処理の結果として第1記憶領域に記憶されている値は「0」であり、

第2記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処理は、第2記憶領域に記憶されている値が「0」であるか否かを判断することなく、一命令で実行可能とし、

第2記憶領域に「M(M-1)」が記憶されている状況において、第2記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処理が実行されたときは、当該処理の結果として第2記憶領域に記憶されている値は「M-1」であり、

第2記憶領域に「0」が記憶されている状況において、第2記憶領域に記憶されている値から「1」を減算する処理が実行されたときは、当該処理の結果として第2記憶領域に記憶されている値は「0」である

ことを特徴とする。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

本発明によれば、簡素なプログラムで値を更新可能とすることが可能となる。